ダッシュボードからクラスタを監視および管理する

Active IQ Unified Manager

NetApp
November 13, 2026

This PDF was generated from https://docs.netapp.com/ja-jp/active-iq-unified-manager-918/storage-mgmt/concept_monitor_and_manage_clusters_from_dashboard.html on November 13, 2026. Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

ダッシュボードからクラスタを監視および管理する . . . 1
- Active IQ Unified Manager のダッシュボードからクラスターを監視および管理する . . . 1
- Active IQ Unified Manager ダッシュボードページについて . . . 2
  - [管理操作]パネル . . . 2
  - [容量]パネル . . . 2
  - [パフォーマンス容量]パネル . . . 2
  - [ワークロード IOPS]パネル . . . 3
  - [ワークロード パフォーマンス]パネル . . . 3
  - [セキュリティ]パネル . . . 3
  - [データ保護]パネル . . . 3
  - [使用状況]パネル . . . 4
- Unified Managerから直接ONTAPの問題を修正または管理する . . . 5
  - Active IQ Unified Manager から ONTAP の問題や機能を直接管理する . . . 5
  - Active IQ Unified Manager の「Fix It」ボタンと「Fix All」ボタンのオプションについて学ぶ . . . 5
  - Active IQ Unified Manager で修正する管理アクションのステータスを表示する . . . 6
  - Active IQ Unified Manager で修正できる ONTAP の問題について . . . 7
  - Active IQ Unified Manager でスクリプトを使用して管理アクションをオーバーライドする . . . 11

ダッシュボードからクラスタを監視および管理する

Active IQ Unified Manager のダッシュボードからクラスターを監視および管理する

ダッシュボードには、監視対象の ONTAP システムの現在の健全性に関する累積的な情報が一目でわかります。ダッシュボードには、監視対象のクラスタの全体的な容量、パフォーマンス、およびセキュリティの健全性を評価できる「panels」が用意されています。

さらに、ONTAP System ManagerまたはONTAP CLIを使用する代わりに、Unified Managerのユーザーインターフェイスから直接修正できる特定のONTAPの問題があります。

ダッシュボードの上部で、監視対象のすべてのクラスターの情報を表示するか、個々のクラスターの情報を表示するかを選択できます。まず、すべてのクラスターの状態を確認し、詳細情報を表示する場合は個々のクラスターにドリルダウンできます。

お使いの設定によっては、下記に記載されているパネルの一部がページに表示されない場合があります。

パネル	説明
管理操作	Unified Managerが問題を診断して単一の解決策を特定できる場合、その解決策は「Fix It」ボタンとともにこのパネルに表示されます。
Capacity	ローカル層とクラウド層の合計容量と使用容量、およびローカル容量が上限に達するまでの日数を表示します。
パフォーマンス容量	各クラスタのパフォーマンス容量値と、パフォーマンス容量が上限に達するまでの日数を表示します。
ワークロード IOPS	特定のIOPS範囲内で現在実行中のワークロードの総数を表示します。
ワークロード パフォーマンス	定義された各パフォーマンス サービス レベルに割り当てられている準拠ワークロードと非準拠ワークロードの総数が表示されます。
セキュリティ	準拠しているクラスターの数と準拠していないクラスターの数、準拠しているSVMの数と準拠していないSVMの数、および暗号化されているボリュームの数と暗号化されていないボリュームの数を表示します。
保護	SVM-DR関係で保護されているStorage VMの数、SnapMirror関係で保護されているボリュームの数、Snapshotで保護されているボリュームの数、およびMetroClusterで保護されているクラスタの数が表示されます。

パネル	説明
使用状況	IOPS、スループット（MBps）、または使用済み物理容量の最大値でソートされたクラスタを表示します。

Active IQ Unified Manager ダッシュボードページについて

[ダッシュボード]ページには、監視しているクラスタの容量、パフォーマンス、セキュリティの健全性の概要が表示される「パネル」があります。また、このページには、Unified Managerが特定のイベントを解決するために実行できる修正が表示される[管理操作]パネルがあります。

ほとんどのパネルには、そのカテゴリのアクティブ イベントの数および過去24時間に追加された新しいイベントの数が表示されます。この情報から、イベントを解決するために詳細な分析が必要なクラスタを決定できます。イベントをクリックすると、上位のイベントが表示され、そのカテゴリのアクティブなイベントだけを表示する[イベント管理]インベントリ ページへのリンクが表示されます。

ダッシュボードの上部で、すべての監視対象クラスタの情報を表示するか（[すべてのクラスタ]）、特定のクラスタの情報を表示するかを選択できます。最初にすべてのクラスタのステータスを表示してから、詳細情報を確認する場合は個々のクラスタにドリルダウンできます。

次のパネルの一部は、設定に応じてダッシュボードに表示されます。

[管理操作]パネル

Unified Managerは、特定の問題を徹底的に診断し、単一の解決策を提供することができます。利用可能な場合、これらの解決策はこのパネルに*Fix It*または*Fix All*ボタンとともに表示されます。ONTAP System ManagerやONTAP CLIを使用する代わりに、Unified Managerからこれらの問題をすぐに修正できます。すべての問題を表示するには、詳細について「See "Unified Managerから直接ONTAPの問題を解決する"」をクリックしてください。

[容量]パネル

すべてのクラスタを表示している場合、このパネルには、各クラスタの使用済み物理容量（Storage Efficiencyによる削減効果の適用後）と使用可能な物理容量（Storage Efficiencyによって実現可能な削減効果を含まない）、ディスクがフルになるまでの予測日数、およびONTAPのStorage Efficiency設定に基づくデータ削減率（Snapshotコピーを含まない）が表示されます。また、設定されているクラウド階層の使用済み容量も表示されます。棒グラフをクリックすると、そのクラスタの[アグリゲート]インベントリ ページが表示されます。「フルまでの日数」というテキストをクリックすると容量の残り日数が最も少ないアグリゲートを示すメッセージが表示され、そのアグリゲート名をクリックすると詳細が表示されます。

単一のクラスタを表示している場合、このパネルには、ローカル階層上の各データ アグリゲート（ディスク タイプ別にソート）およびクラウド階層について、使用済み物理容量と使用可能な物理容量が表示されます。ディスク タイプの棒グラフをクリックすると、そのディスク タイプを使用しているボリュームの[ボリューム]インベントリ ページが表示されます。

[パフォーマンス容量]パネル

すべてのクラスタを表示している場合、このパネルには、各クラスタのパフォーマンス容量（過去1時間の平

均）と、パフォーマンス容量が上限に達するまでの日数（日次増加率に基づく）が表示されます。棒グラフをクリックすると、そのクラスタの[ノード]インベントリ ページが表示されます。[ノード]インベントリ ページには、過去72時間の平均パフォーマンス容量が表示されます。「フルまでの日数」というテキストをクリックするとパフォーマンス容量の残り日数が最も少ないノードを示すメッセージが表示され、そのノード名をクリックすると詳細が表示されます。

単一のクラスタを表示している場合、このパネルには、そのクラスタの使用済みパフォーマンス容量（%）、合計IOPS、合計スループット（MBps）、およびこれらの3つの指標が上限に達するまでの想定日数が表示されます。

[ワークロード IOPS]パネル

単一のクラスタを表示している場合、このパネルには、特定のIOPS範囲で実行中のワークロードの総数が表示され、グラフにカーソルを合わせると各ディスク タイプの数が示されます。

[ワークロード パフォーマンス]パネル

このパネルには、各パフォーマンス サービス レベル（PSL）ポリシーが割り当てているワークロードのうち、準拠しているワークロードと準拠していないワークロードの総数が表示されます。また、PSLが割り当てられていないアグリゲートの数も表示されます。棒グラフをクリックすると、そのポリシーが割り当てられ、準拠しているワークロードが[ワークロード]ページに表示されます。棒グラフ上の数をクリックすると、そのポリシーが割り当てられていて、準拠しているワークロードと準拠していないワークロードが表示されます。

[セキュリティ]パネル

[セキュリティ]パネルには、現在のビューに応じてすべてのクラスタまたは単一のクラスタのセキュリティ ステータスの概要が表示されます。このパネルには次の情報が表示されます。

- 過去24時間に受信したセキュリティイベントの一覧。イベントをクリックすると、イベント詳細ページで詳細が表示されます
- クラスタのセキュリティステータス（準拠クラスタ数と非準拠クラスタ数）
- ストレージVMのセキュリティステータス（準拠しているストレージVMと準拠していないストレージVMの数）
- ボリュームの暗号化状態（暗号化されているボリュームと暗号化されていないボリュームの数）
- ボリュームのランサムウェア対策ステータス（ランサムウェア対策が有効または無効になっているボリュームの数）

準拠しているクラスタとしていないクラスタ、Storage VM、暗号化されているボリュームとされていないボリューム、およびボリュームのランサムウェア対策ステータスの棒グラフをクリックすると、該当するページに移動して該当するクラスタ、Storage VM、ボリュームのセキュリティの詳細が表示されます。

コンプライアンスは "NetApp ONTAP 9 セキュリティ強化ガイド"に基づいています。パネル上部の右矢印をクリックすると、[セキュリティ]ページにすべてのクラスタのセキュリティの詳細が表示されます。詳細については、"クラスタおよびストレージVMの詳細なセキュリティステータスを表示する"を参照してください。

[データ保護]パネル

このパネルには、データセンター内の単一またはすべてのクラスタのデータ保護概要が表示されます。ONTAPで過去24時間に発生したデータ保護イベント、MetroClusterイベント、およびアクティブなイベントの総数が表示されます。各イベントのリンクをクリックすると、イベント詳細ページに移動します。イベ

ント管理インベントリページですべてのアクティブな保護イベントを表示するには、*View All*リンクをクリックします。パネルには以下が表示されます：

- Snapshotコピーで保護されているデータセンター内の1つまたはすべてのクラスタのボリューム数。
- SnapMirror関係で保護されているデータセンター内の1つまたはすべてのクラスタのボリューム数。SnapMirror関係については、ソース クラスタのボリューム数がカウントされます。
- MetroCluster over IP構成とMetroCluster over FC構成で保護されているデータセンター内のクラスタの数または全クラスタ。
- SnapMirror目標復旧時点（RPO）遅延のあるボリューム関係の数（遅延ステータスに基づく）。

カーソルを合わせると、それぞれの数と凡例を確認できます。パネル上部の右矢印をクリックすると、[データ保護]ページに単一またはすべてのクラスタの詳細が表示されます。また、次の操作を行うこともできます。

- Snapshotコピーで保護されていないボリュームおよびされているボリュームの棒グラフをクリックすると、[ボリューム]ページに移動して詳細を確認できます。
- MetroCluster構成で保護されているクラスタまたはされていないクラスタの棒グラフをクリックすると、[クラスタ]ページに移動して詳細を確認できます。
- すべての関係の棒グラフをクリックすると、ソース クラスタに基づいてフィルタされた詳細が[関係]ページに表示されます。

詳細については、"ボリュームの保護ステータスの表示"を参照してください。

[使用状況]パネル

すべてのクラスタを表示している場合、IOPS、スループット（MBps）、または使用済み物理容量が大きい順にクラスタを表示できます。

単一のクラスタを表示している場合は、IOPS、スループット（MBps）、または使用済み論理容量が大きい順にワークロードを表示できます。

関連情報

"Unified Managerの自動修正措置を使用した問題の修正"

"パフォーマンス イベントに関する情報の表示"

"パフォーマンス容量と使用可能なIOPSの情報を使用したパフォーマンスの管理"

"[ボリューム / 健全性の詳細ページ"]

"パフォーマンス イベントの分析と通知"

"イベントの重大度タイプの説明"

"パフォーマンス イベントのソース"

"クラスタのセキュリティ目標を管理する"

"パフォーマンスクラスタランディングページからクラスタのパフォーマンスを監視します"

"パフォーマンスインベントリページを使用してパフォーマンスを監視します"

Unified Managerから直接ONTAPの問題を修正または管理する

Active IQ Unified Manager から ONTAP の問題や機能を直接管理する

ONTAP System ManagerやONTAP CLIを使用する代わりに、Unified Managerのユーザーインターフェイスから直接、特定のONTAPの問題を修正したり、特定のONTAPの機能を管理したりできます。「Management Actions」オプションは、Unified Managerのイベントをトリガーした多数のONTAPの問題に対する修正を提供します。

左側のナビゲーションペインにある*管理アクション*オプションを選択すると、管理アクションページから直接問題を修正できます。管理アクションは、ダッシュボードの管理アクションパネル、イベント詳細ページ、および左側のナビゲーションメニューのワークロード分析からも利用できます。

問題によっては、Unified Managerの詳細な診断の結果、単一の解決策が提示されることがあります。ONTAPの一部の機能（ランサムウェア対策監視など）については、Unified Managerで内部チェックが実行されて特定の操作が提案されます。解決策が利用可能な場合、それらの解決策は「管理アクション」に「修正」ボタンとともに表示されます。問題を解決するには、「修正」ボタンをクリックしてください。アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

Unified Manager は、要求された修正を行うための ONTAP コマンドをクラスターに送信します。修正が完了すると、そのイベントは廃止されます。

一部の管理操作では、「すべて修正」ボタンを使用して、複数のストレージオブジェクトの同じ問題を修正できます。たとえば、「Volume Space Full」イベントが発生しているボリュームが5つある場合、「ボリュームの自動拡張を有効にする」の「すべて修正」管理アクションをクリックすることで解決できる可能性があります。ワンクリックで、5つのボリュームのこの問題を修正できます。

自動修復を使用して管理できるONTAPの問題と機能の詳細については、"Unified Managerで解決可能な問題"を参照してください。

Active IQ Unified Manager の「Fix It」ボタンと「Fix All」ボタンのオプションについて学ぶ

管理アクションページには、Unified Managerがイベントを通じて通知を受けた問題を修正するための*修正*または*すべて修正*ボタンが用意されています。

必要に応じて、ボタンをクリックして問題を修正することを推奨します。ただし、Unified Manager が推奨する方法で問題を解決するかどうか確信が持てない場合は、以下の操作を実行できます。

希望する処理	アクション
特定されたすべてのオブジェクトについて、Unified Managerで問題を修正する。	*Fix All*ボタンをクリックします。
特定されたどのオブジェクトについても現時点では問題を修正せず、再度イベントが生成されるまでこの管理操作を非表示にする。	下向き矢印をクリックし、*すべて閉じる*をクリックします。

希望する処理	アクション
特定されたオブジェクトの一部についてのみ、問題を修正する。	管理アクションの名前をクリックするとリストが展開され、個々の*Fix It*アクションがすべて表示されます。その後、個々の管理アクションを修正または解除する手順に従ってください。

希望する処理	アクション
Unified Manager で問題を修正します。	「Fix It」ボタンをクリックしてください。
現時点では問題を修正せず、再度イベントが生成されるまでこの管理操作を非表示にする。	下向き矢印をクリックし、**Dismiss** をクリックしてください。
問題について詳しく確認するために、このイベントの詳細を表示する。	• *Fix It*ボタンをクリックすると、ダイアログボックスに修正内容が表示されますので、内容をご確認ください。 • 下向き矢印をクリックし、*イベント詳細を表示*をクリックして、イベント詳細ページを表示します。 問題を解決したい場合は、表示されたいずれかのページから*Fix It*をクリックしてください。
問題について詳しく確認するために、このストレージ オブジェクトの詳細を表示する。	ストレージオブジェクトの名前をクリックすると、パフォーマンスエクスプローラーまたはヘルス詳細ページに詳細が表示されます。

修正は、次の15分間に実施される構成ポーリングで反映されることもあれば、構成の変更が検証されてイベントが廃止状態になるまでに何時間もかかることもあります。

完了済みまたは進行中の管理アクションの一覧を表示するには、フィルターアイコンをクリックして 完了 または 進行中 を選択します。

Fix All操作は順番に実行されるため、*進行中*パネルを表示すると、一部のオブジェクトはステータスが*進行中*と表示されますが、他のオブジェクトはステータスが*スケジュール済み*と表示されます。つまり、それらはまだ実装待ちの状態です。

Active IQ Unified Manager で修正する管理アクションのステータスを表示する

管理アクションページでは、修正対象として選択したすべての管理アクションのステータスを確認できます。ほとんどのアクションは、Unified ManagerがクラスタにONTAPコマンドを送信したあと、かなり早く*Completed*と表示されます。ただし、ボリュームの移動など、一部の操作には時間がかかる場合があります。

[管理操作]ページでは、次の3つのフィルタを使用できます。

- *完了*には、正常に完了した管理アクションと失敗した管理アクションの両方が表示されます。*失敗*したアクションには失敗の理由が表示されるため、手動で問題に対処できます。
- *進行中*には、実装中の管理アクションと、実装がスケジュールされている管理アクションの両方が表示されます。
- 「推奨」には、監視対象のすべてのクラスターに対して現在有効になっているすべての管理アクションが

表示されます。

手順

1. 左側のナビゲーションペインの*管理アクション*をクリックします。または、*ダッシュボード*の*管理アクション*パネルの上部にある ⋮ をクリックし、表示するビューを選択します。

   [管理操作]ページが表示されます。

2. *概要*フィールドの管理アクションの横にあるキャレットアイコンをクリックすると、問題の詳細と、問題の解決に使用されるコマンドを確認できます。
3. *失敗*したアクションを表示するには、*完了*ビューの*ステータス*列で並べ替えます。同じ目的で*フィルター*ツールを使用することもできます。
4. 失敗した管理アクションに関する詳細情報を表示する場合、または推奨される管理アクションを修正する場合は、管理アクションの横にあるキャレットアイコンをクリックして展開された領域から*イベントの詳細を表示*をクリックします。そのページには*修正する*ボタンがあります。

Active IQ Unified Manager で修正できる ONTAP の問題について

Active IQ Unified Managerの自動修正機能を使用すると、Unified ManagerからONTAPの特定の問題を解決したり、特定の機能（ランサムウェア対策の監視など）を管理したりできます。

この表では、Unified ManagerのWeb UIにある*Fix It*または*Fix All*ボタンから直接管理できる、これらのONTAPの問題や機能について説明します。

イベント名と概要	管理操作	「修正」操作
ボリューム スペースがフル ボリュームにスペースがほとんど残っておらず、容量の「フル」しきい値を超えています。このしきい値は、デフォルトではボリューム サイズの90%に設定されています。	ボリュームの自動拡張を有効にする	Unified Managerはこのボリュームにボリュームの自動拡張が設定されていないと判断し、必要に応じてボリュームが拡張されるようにこの機能を有効にします。
inode がフル このボリュームにはinodeが残っていないため、新しいファイルを受け付けることができません。	ボリュームのinodeの数を増やす	ボリュームのinodeの数を2%増やします。
ストレージ階層のポリシーの不一致を検出 ボリュームにアクセス頻度の低いデータが大量にあり、階層化ポリシーが「Snapshot のみ」または「なし」に設定されています。	クラウドへの自動階層化を有効にする	ボリュームはすでにFabricPoolに配置されているため、階層化ポリシーを「自動」に変更して、アクセス頻度の低いデータが低コストのクラウド階層に移動されるようにします。

イベント名と概要	管理操作	「修正」操作
ストレージ階層の不一致を検出 ボリュームにアクセス頻度の低いデータが大量にありますが、ボリュームがクラウド対応のストレージ階層（FabricPool）に配置されていません。	ボリュームのストレージ階層を変更する	ボリュームをクラウド対応のストレージ階層に移動して階層化ポリシーを「自動」に設定し、アクセス頻度の低いデータをクラウド階層に移動します。
監査ログが無効 Storage VMの監査ログが有効になっていません。	Storage VMの監査ログを有効にする	Storage VMの監査ログを有効にします。 Storage VMにローカルまたはリモートの監査ログの場所が設定されている必要があります。
ログイン バナーが無効 アクセス制限を明確にしてセキュリティを強化するためには、クラスタのログイン バナーを設定する必要があります。	クラスタのログイン バナーを設定する	クラスタのログインバナーを「`Access restricted to authorized users`」に設定します。
ログイン バナーが無効 アクセス制限を明確にしてセキュリティを強化するためには、Storage VMのログイン バナーを設定する必要があります。	Storage VMのログイン バナーを設定する	Storage VMのログイン バナーを「権限のあるユーザだけがアクセスできます」に設定します。
SSHでセキュアでない暗号を使用 サフィックスが「-cbc」の暗号はセキュアでないとみなされます。	セキュアでない暗号をクラスタから削除する	セキュアでない暗号（aes192-cbc、aes128-cbcなど）をクラスタから削除します。
SSHでセキュアでない暗号を使用 サフィックスが「-cbc」の暗号はセキュアでないとみなされます。	セキュアでない暗号をStorage VMから削除する	セキュアでない暗号（aes192-cbc、aes128-cbcなど）をStorage VMから削除します。
AutoSupport HTTPS 転送が無効 テクニカル サポートへのAutoSupportメッセージの送信に使用する転送プロトコルは、暗号化されている必要があります。	AutoSupportメッセージの転送プロトコルとしてHTTPSを設定する	クラスタ上のAutoSupportメッセージの転送プロトコルとしてHTTPSを設定します。
クラスタ負荷の不均衡しきい値を超過 クラスタ内のノード間で負荷が不均衡になっています。このイベントは、ノード間の使用済みパフォーマンス容量の差が30%を超えた場合に生成されます。	クラスタ ワークロードを分散する	Unified Managerは別のノードに移動することで不均衡が最も解消されるボリュームを特定し、そのボリュームを移動します。

イベント名と概要	管理操作	「修正」操作
クラスタ容量の不均衡しきい値を超過 クラスタのアグリゲート間で容量が不均衡になっています。このイベントは、アグリゲート間の使用済み容量の差が70%を超えた場合に生成されます。	クラスタ容量を分散する	Unified Managerは別のアグリゲートに移動することで不均衡が最も解消されるボリュームを特定し、そのボリュームを移動します。
使用済みパフォーマンス容量しきい値を超過 いくつかの非常にアクティブなワークロードによる使用率を下げないと、ノードの負荷が高くなりすぎる可能性があります。このイベントは、ノードの使用済みパフォーマンス容量の値が12時間以上100%を超えている場合に生成されます。	ノードの高負荷を制限する	Unified ManagerはIOPSが最も高いボリュームを特定し、過去の想定IOPSとピークIOPSのレベルを使用してQoSポリシーを適用し、ノードの負荷を軽減します。
動的イベントの警告しきい値を超過 一部のワークロードの負荷が異常に高いため、ノードはすでに過負荷状態です。	ノードの過負荷を軽減する	Unified ManagerはIOPSが最も高いボリュームを特定し、過去の想定IOPSとピークIOPSのレベルを使用してQoSポリシーを適用し、ノードの負荷を軽減します。
テイクオーバーを実行不可 フェイルオーバーが無効になっているため、停止中またはリブート中のノードが使用可能な状態に戻るまではノードのリソースへのアクセスが失われます。	ノード フェイルオーバーを有効にする	Unified Managerは、クラスタ内のすべてのノードでフェイルオーバーを有効にするための適切なコマンドを送信します。
オプションcf.takeover.on_panicの設定がOFF nodeshellのオプション「cf.takeover.on_panic」が*off*に設定されているため、HA構成のシステムで問題が発生する可能性があります。	パニック時のテイクオーバーを有効にする	Unified Managerは、この設定を*on*に変更するための適切なコマンドをクラスタに送信します。
ノードシェル オプションsnapmirror.enableを無効化 古いnodeshellオプション「snapmirror.enable」が*on*に設定されているため、ONTAP 9.3以降へのアップグレード後の起動時に問題が発生する可能性があります。	snapmirror.enableオプションをoffに設定する	Unified Managerは、この設定を*off*に変更するための適切なコマンドをクラスタに送信します。

イベント名と概要	管理操作	「修正」操作
Telnetが有効 Telnetは安全性が高くなく、暗号化されていない方法でデータが渡されるため、潜在的なセキュリティの問題があります。	Telnet の無効化	Unified Managerがクラスタに該当するコマンドを送信し、Telnetを無効にします。
Storage VMのランサムウェア対策の学習を設定 ランサムウェア対策監視のライセンスのあるクラスタを定期的にチェックします。該当するクラスタ内でStorage VMがNFSボリュームまたはSMBボリュームのみをサポートしているかどうかを検証します。	ストレージVMをランサムウェア対策監視の `learning`モードにする	Unified Managerは、クラスタ管理コンソールを介して、ストレージVMのランサムウェア対策監視を`learning`状態に設定します。ストレージVM上に作成されたすべての新しいボリュームのランサムウェア対策監視は、自動的に学習モードに移行します。これを有効にすることで、ONTAPはボリューム上のアクティビティのパターンを学習し、潜在的な悪意のある攻撃による異常を検出できます。
ボリュームのランサムウェア対策の学習を設定 ランサムウェア対策監視のライセンスのあるクラスタを定期的にチェックします。該当するクラスタ内でボリュームがNFSサービスまたはSMBサービスのみをサポートしているかどうかを検証します。	ボリュームをランサムウェア対策監視の `learning`モードにする	Unified Managerは、クラスタ管理コンソールを使用して、ボリュームのランサムウェア対策監視を`learning`状態に設定します。これを有効にすることで、ONTAPはボリューム上のアクティビティのパターンを学習し、潜在的な悪意のある攻撃による異常を検出できるようになります。
ボリュームのランサムウェア対策の有効化 ランサムウェア対策監視のライセンスを持つクラスタを定期的にチェックします。ボリュームが45日以上ランサムウェア対策監視の`learning`モードになっているかどうかを検出し、アクティブモードに移行する見込みを判断します。	ボリュームをランサムウェア対策監視の `active`モードにする	Unified Managerは、クラスタ管理コンソールを介して、ボリューム上のランサムウェア対策監視を`active`に設定します。これを有効にすることで、ONTAPはボリューム上のアクティビティのパターンを学習し、潜在的な悪意のある攻撃による異常を検出し、データ保護アクションのためのアラートを作成できます。
ボリュームのランサムウェア対策の無効化 ランサムウェア対策監視のライセンスのあるクラスタを定期的にチェックします。ボリュームのランサムウェア対策監視がアクティブな場合に繰り返し表示される通知を検出します（潜在的なランサムウェア攻撃の警告が30日以上にわたって返される場合など）。	ボリュームのランサムウェア対策監視を無効にする	Unified Managerは、クラスタ管理コンソールから、ボリュームのランサムウェア対策監視を無効にします。

Active IQ Unified Manager でスクリプトを使用して管理アクションをオーバーライドする

カスタム スクリプトを作成してアラートに関連付けると、特定のイベントに対して、[管理操作]ページやUnified Managerダッシュボードに表示されるデフォルトの管理操作ではなく特定の操作を実行できます。

あるイベント タイプに対して、Unified Managerの管理機能を使用して修正するのではなく特定の操作を実行するには、希望する操作のカスタム スクリプトを設定します。設定したスクリプトをそのイベント タイプのアラートに関連付けると、イベントに対して個別に対処できます。この場合、[管理操作]ページやUnified Managerのダッシュボードでそのイベント タイプに対する管理操作は生成されません。

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、http://www.netapp.com/TMに記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。